

①平安時代の歴史

内容	詳細
<p>堀川六条には、源頼義・義家・為義・義朝・義経の邸宅である「源氏堀川館」があった</p>	<p>平安時代に、源氏が六条堀川館を構え、義家、為義、義朝、義経までここを拠点にして、多くの歴史の舞台となっていた。</p> <p>しかし義経が京都を逃れた後は焼き払われ、屋敷内にあった左女牛井が残った。この井戸は後世に至るまで名水と謳われ、村田珠光や千利休も愛用したと言われているが、第二次世界大戦中の建物疎開とその後の堀川通の拡幅により消滅してしまった。</p>
<p>平清盛の邸宅である「西八条殿」から御神体を掘り起こしお祀りしたところ、翌年に太政大臣に任じられたことから、「若一神社」は開運出世の神様と言われている。</p>	<p>現在の梅小路一带は平清盛の邸宅である「西八条殿」があった。</p> <p>1166年に平清盛が熊野詣の際に土の中にある御神体を見つけてお祀りせよとの「お告げ」を受ける。</p> <p>帰京後に邸内を探していたところ、築山から光を放つ御神体を発見、掘り起こし、お祀りするようになったのが若一神社の創建とされている。翌年の1167年に清盛は太政大臣に任ぜられたことから、開運出世の神様とされるようになった。</p>
<p>安寧小学校の堀沿いには、歌舞伎の「ひらがな盛衰記」や俗語「梅が枝節」で知られる「梅が枝の手水鉢」がある。</p>	<p>手水鉢は長らく所在が不明になっていたが、堀川の改修工事の際に発見された後、現在地におかれることとなった。</p> <p>なお、周辺地域の子どもたちは「梅が枝の手水鉢」をよく歌っていたと言われている。</p>
<p>梅逕学区には昔、梅の小径があったらしい。</p>	<p>梅逕学区の「逕」という漢字は、道や小道という意味で、つまり、梅逕は、梅の小道=梅小路という意味。平安京の昔には梅の並木があったことに由来している。</p>
<p>千本通は、平安京の朱雀大路であり、道幅約84mのメインストリートだった！</p>	<p>平安京の朱雀大路は朱雀門から羅城門までの南北約4kmにわたって延びる平安京のメインストリートである。幅は84mほどあり、並木として柳が植えられていた。</p> <p>本来は朱雀大路が都の中心とされていたが、徐々に荒廃・縮小していった。加えて、朱雀門以北の旧大内裏方向にも道が北進していき、鎌倉時代には「千本通」と呼ばれるようになる。</p>